

久野瀬 区長 益子恭平さん（七十代）

車が通らずいつもと違う夜

私の家は国道一一八号に面しており、久慈川より約一〇〇メートルほどの距離にあります。台風十九号の当日夜十時過ぎ、車の通行音がなくなり静かな為窓を開けましたところ、家の前の小川が満水状態でした、久慈川の異変を感じ家族を起こし避難することとしました。

車で避難する時には国道も冠水が始まりかけておりました。避難先はJR袋田駅わきのコミュニティセンターを考えましたが、明治二十三年の久慈川洪水で現在の駅周辺は水没したことを聞いておりましたので、高台の知人の家に避難いたしました。

自宅は建て替え前、茅葺屋根の高床式で小さな子が歩けるほどでした。それは過去の洪水対策だったのではないかと思えます。現在の家は一般的な土台の高さのため、今回床上浸水となつてしまいました。

大子町には三つの災害伝承碑

「可恐（おそるべし）の碑」と呼ばれている石碑が大子町に三つあります。これらの碑は明治二十三年八月七日に発生した久慈川の大洪水の状況を後世に伝えるため建てられた石碑です。

一つは袋田駅近く、二つ目は久野瀬諏訪神社脇、三つ目は池田地区の国道一一八号脇にあります。

袋田駅近くの碑には「可恐」の題名と近辺の被害状況が刻まれ、久野瀬諏訪神社脇の碑には洪水が石碑のところまで到達したことと久慈川の増水量が刻まれおり、池田の碑には洪水の状況や被害内容が詳しく刻まれております。久野瀬諏訪神社脇の碑と池田の碑は洪水到達地点に現在もありますが袋田駅近くの碑はJR水郡線開通工事の為、約十メートルほど高い現在の位置に移動したと聞いております。

台風十九号の洪水到達点が久野瀬諏訪神社脇の碑と池田の碑とほぼ同じですので洪水による久慈川の増水量は同規模であったと考えられます。

伝承碑は忘れられていた

これらの石碑は令和元年の台風十九号による洪水が発生するまで忘れられ、明治二十三年の洪水より一〇〇年以上が過ぎ地元の人達に伝えられる事はなくなっていました。明治二十三年の洪水浸水家屋は二五〇軒、台風十九号による浸水家屋は五八八軒と倍以上ですがこの違いは人口が大幅に増えたこともありませんが、洪水の被害を受けた地域に新たに家を建てた方が多く

いたことも大きな原因だったと思います。洪水被害の伝承がされなくなると同様な被害が繰り返されることとなるわけです。

被害を後世へ

「可恐の碑」は明治二十三年の洪水被害を後世に伝えるために建てられたにもかかわらず台風十九号では教訓とはなりませんでした。

台風十九号の被害が明治二十三年の洪水と同様の大きな被害をもたらしたことで改めて見直されることになりました。また、国土地理院の自然災害伝承碑に掲載されたことで現在は見学に訪れる方が時々おられます。

久野瀬諏訪神社脇の「可恐の碑」と同位置に台風十九号の被害を刻んだ新しい「可恐の碑」を建立いたしました。今後も災害伝承として守っていきたいと考えております。

また、上記の三つの石碑のうち袋田駅近くの碑は現在、元の位置にはありませんので今後元の位置と推定される場所に移動したいと考えております。



久野瀬諏訪神社にある明治 23 年の可恐の碑と
台風 19 号の碑